大阪市における社交倶楽部の変遷に関する研究

A Study on Transition of the Social Club in Osaka

都市計画分野 加畑文裕 Urban planning Fumihiro Kabata

本研究は大阪市における社交空間及び社交倶楽部に着目し、近代より栄えた時代背景と共に社交空間の変遷を捉えることで、現代における社交空間及び社交倶楽部の意義を考察するものである。設立年代の異なる社交倶楽部を(①会館と立地、②室構成、③事業計画、④会員構成)に関してそれぞれの点で分類し、現存する社交倶楽部の活動の変遷より今後の都市における社交空間の在り方を示す。

This study is focus on the sociable space and the social club in Osaka city and considers a problem while I think about the historical backdrop that flourished from modern society to seize the change of the sociable space and the social club with the urban development. I classify social club varying in the establishment generation under four topics, ① overview of the building and location ② room component ③ business plan ④ member configuration, and show the existence of the sociable space in the city future than the change of the activity of an existing social club.

1. はじめに

1-1.研究の背景と問題意識

個人生活より集団社会へ、個人経済より社会経済 へと変わりゆく人類生活様式の一現象として社交倶 楽部は誕生した1)。都市の人口集中などの現象の根 底には「集団生活の強化」があり、社交倶楽部結成 においても同様である¹⁾。しかし、日本は近代に入 ると職住分離の考えが人々に浸透し、休日における 人々の社交性が希薄化していく、これに対して葛野 壮一郎は『建築と社会』(昭和5年3月)で社交倶 楽部を取り上げ、「集団生活の強化」の必要性につ いて言及した。このように社交倶楽部の発展過程を 見る事は社会史の一面が綴られると言える 1)。社交 倶楽部は社会の指導層・上流階級など限定されたメ ンバーだけで構成された極めて閉鎖的な社交組織で あり、あくまでも、支配社階級や知識人のための、 社交空間という機能であり、特権階級の人々のサロ ンである2)。しかし、バブル経済崩壊後の長期的な 不況や消費の低迷など、産業構造の変化は東京一極 集中を引き起こし、社交倶楽部の会員である指導 層・上流階級のメンバーが東京にとどまることによ る影響から大阪市において、会員数減少と会員の高 齢化から閉鎖に追い込まれる社交倶楽部が多くなる。 一方で現代ではアカデミーヒルズ、ナレッジキャ ピタル、OBPアカデミアなど様々な分野の人々が親

睦を図る産業構造の変化に対応した新しい社交空間 が生まれ、「集団生活の強化」は絶えることがない。

大阪市においては近代、近現代に多くの社交倶楽部が誕生し、民都大阪と言われるように民間を基盤とした大阪経済の発展過程において社交倶楽部は重要な位置づけで、社交倶楽部の数、分類において多様であった。現代ではそれら社交倶楽部も日本綿業倶楽部のように、入会条件を変更し、同業者の枠を越えた社交空間を求める動きが見られる。また、定期的に見学会を開催し、会館を一般に開放し、会員専用の会館という倶楽部形態の変化も見られ、社交空間を模索している。しかし、社交倶楽部は絶えず人々に社交空間を提供し、都市と共に存在し続ける。

1-2. 研究の目的

現代における社交空間の在り方を示すためには、 社交倶楽部の発展過程にさかのぼり、時代背景と共 に変遷を捉えることは重要である。



図1 都市における倶楽部の位置づけ

1-3. 研究の位置づけ

萱沼³⁾ らは近代東京の社交倶楽部に着目し、その 成立過程と実態を明らかにし、日本の都市近代化の 過程における史的位置づけを行うことを目的とした。

本研究では大阪市の社交倶楽部に着目し、社交空間の変遷を時代背景と共に活動の変化を捉え、室の構成や事業計画などから大阪市における社交倶楽部及び社交空間の変遷を明らかにする。

表 1 社交倶楽部研究の位置づけ

| | 社交俱楽部研究 | | | | | | | | | |
|---------|---|----------------------------|--------------------------|-------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| | 12.1 | ¥ | 都市 | | | | | | | |
| | 社交空間 | 建築意匠 | 娯楽施設の整備 | 街のシンボル性 | 社交空間 | | | | | |
| 橋爪 | | | 娯楽施設として社交供楽 部を取り上げた研究 | | | | | | | |
| 亜沼ら | 社交・娯楽のための収益に 結びつかない諸室を設計の 中心とする。 | | | | 会員外にも会合や催しの め、人の集まる場を提供。 | | | | | |
| 川島 | 建築物として評価した。 | 建築家の作品として評価 した。 | | | | | | | | |
| 桑原ら、松岡ら | 各事例を比較した。 | | | 文化施設として重要な 会館であると評価し た。 | 住民の集会所としても機! すると評価した。 | | | | | |
| 岡田ら、保利ら | | 外壁デザインの周辺建築 物への継承を評価した。 | | 歴史的建築物として評 価した。 | 都市再開発事業の中での(置づけを行った。 | | | | | |
| 本研究 | 会館・立地、室構成、事業 計画、会員構成を時代背景 と共に整理し社交空間の変 遷を明らかにする。 | | | | 会館・立地、蜜構成、事 計画、会員構成を時代背 と共に整理し社交空間の 遷を明らかにする。 | | | | | |

2. 大阪市における社交倶楽部の概要

2-1.事例の抽出

大阪府卸商業名鑑(昭和41年度版)に「倶楽部」 66事例が記載されている。奉仕倶楽部は本研究の 趣旨と外れ、除いた22事例を対象に絞る。(表2)

| 倶楽部 | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|--|----------------------|------------------------------|---|-----------------------------|--|--|--|
| ž. | 交倶楽部 | | 運動値 | 具楽部 | 奉仕倶楽部 | | | | |
| ・・・ 一般社交俱楽部 原 | 設立年代が近代のもの | 窓倶楽部 EX) 大阪倶楽部 日本綿葉倶楽部 EX) クラブ間西 テキスタイル倶楽部 | 運動を通して会員同士が親睦を深める組織。 | ex) カントリークラブ フィットネスクラブ | 親善・世界平和 を目的にボラン ティア活動を通 して、地域社会 に奉仕活動を行 う組織。 | ex) ロータリークラブ ライオンズクラブ | | | |

図2 倶楽部の枠組み

表 2 大阪市における社交倶楽部の概要

| No | 名称 | 所在地 | No | 名称 | 所在地 |
|----|-----------|----------------------|----|---------------|--|
| 1 | 今橋クラブ | 中央区今橋1-15 (日経ビル) | 12 | クラブ関西 | (旧館) 北区堂島上3丁目 (新館) 北区堂島浜1丁目3-11 |
| 2 | 大阪倶楽部 | 大阪市中央区今橋4-4-11 | 13 | 好文俱楽部 | 北区梅田2 (第一生命ビル) |
| 3 | 大阪工業倶楽部 | 都島区東野田町9 (大阪大学工学部) | 14 | 堺倶楽部 | 堺市戎之町西1-8 (堺商工会議所内) |
| 4 | 大阪商工クラブ | 北区南本町5-16 (府商工会館) | 15 | 城南会館 | 中央区法円坂町70 |
| 5 | 大阪薬業クラブ | 中央区伏見町2-4-6 | 16 | 清交社 | (旧館) 北区網笠町(堂島ビルヂング9階) (新館) 大 阪市北区堂島浜1-3-1ANAクラウンプラザホテル大阪24階 |
| 6 | 大阪造船俱楽部 | 北区堂島中町1-23 (堂島中町ピル) | 17 | (社) 中央俱楽部 | 福島区下福島3(中央卸売市場) |
| 7 | 関西染料クラブ | 中央区北久太郎町1-20 | 18 | 中央電気倶楽部 | 北区紫島中2-9 |
| 8 | 関西フェルトクラブ | 北区高垣町92(関西フェルトファブリック | 19 | (社) テキスタイル倶楽部 | (旧館?)中央区南本町2-37 (新館)中央区備後町3-4- 9輸出繊維会館 8F |
| 9 | 関西経済倶楽部 | 北区網笠町50 (堂ビル) | 20 | (社) 日本塗料倶楽部 | 中央区南久太郎町2-1 |
| 10 | 関西青経クラブ | 西区土佐堀通1-1 (大同生命ビル) | 21 | (社) 日本綿業倶楽部 | 中央区備後町2-5-8 |
| 11 | 技術経営人倶楽部 | 北区北扇町 (市立工業研究所) | 22 | 有恒俱楽部 | 中央区備後町2-21 (野村ビルディングの一部) |

3. 大阪市における社交倶楽部の類型化

3-1. 設立年

表 3 設立年と倶楽部の分類

| 時代区分 | 近代 | 近現代 | | | | | |
|------------|-----------------|-----------------------|--|--|--|--|--|
| 分類 (設立年など) | 近代的社交倶楽部 | 近現代的社交倶楽部 | | | | | |
| 設立年 | 1900年~1945年(終戦) | 1945年(終戦)~1989年(昭和末期) | | | | | |

社交倶楽部の設立年を近代・近現代に区分し、設立年、会館の意匠より時代区分に「的」と付け倶楽部を分類する。また、本研究で現代は主に現在を指すため終戦以降昭和末までを近現代と定義する。

3-2. 設立の経緯

俱楽部設立趣意書より各俱楽部の設立当時の目的 を読み取り、設立年ごとの特徴を把握するため、設 立年分類(近代的社交倶楽部、近現代的社交倶楽部) より代表事例を次に示す。

(1) 近代的社交俱楽部

(大阪倶楽部)

「欧州には17世紀時代より、倶楽部あり爾来 年と共に発達して政治家より成るもの、軍人よ り成るもの、実業家より成るもの、文学者より 成るもの、医師より成るもの、技術者より成る もの、其類別百を以て数えるに足る。そして今 や倶楽部は社交界唯一の重要なる機関となり之 れに依りて自他の利益するところ頗る多きもの あり、近来我帝都にも数多の倶楽部あり、社交 の発達に資する所実に鮮少ならず。然るに我が 大阪市は120万の人口を抱擁し、帝都商業の中 心地を以て称せらるるに関わらず、銀行業者よ りなる銀行倶楽部を除きては倶楽部と称し得る に足るものなく、而かも大阪銀行倶楽部は銀行 業者以外の人士を容るるには規模余りに小に失 す故に、大阪市にありて社交と称するものは旧 套を脱せざると共に其範囲も亦頗る狭小なり。 是れ久しく世人の遺憾とせざる所にして夙に大 規模の社交倶楽部設立の議を唱へられたる所以 なり。

今や大阪は朝鮮の併合、満州の発達、清国の 開発、太平洋の隆運と共に其商工業は非常の速度を以て進み、将に東洋に於ける商業の中心地たらんとす、此大なる運命を控へる大阪は人口の激増と共に人事益錯雑となりで、郵便、電信、電話のみに依りで百事を処理し難きものあり、仍で各方面の人士を網羅せる大阪倶楽部を組織し、好適の位置を択みて部員の集会所に宛てなば、百般の処弁に資益するところ莫大なるものと共に、社交上益する所頗る多きものあるべしと信ず、之れ今回大阪倶楽部を設立せんとする所以なり、同感の士賛同を吝しむなくんば真に幸なり。」〈出典:「大阪倶楽部 50 年史」pp33〉

(2) 近現代的社交倶楽部

(今橋クラブ)

「第二次世界大戦も日本の無条件降伏によって 終止符が打たれ、帝国日本は崩壊し新しい民主 日本が生まれ出るに当たって各界の改組や新様 式が当然必要とされ、新時代の要求に応える活 発な動きが示された昭和20年から昭和26年に かけて関西財界を中心とする社交界もようやく 曙光を認めるに至り、時代に即応する倶楽部活 動が待望されてきたが有数な歴史を持つ倶楽部 はその施設を接収され仮住まいのやむなき状態 で充分にその目的を達する事ができない恨みが あった。この秋日本経済新聞社が西日本読者へ の報道サービス陣の画期的強化を目指し大阪印 刷のため宏壮なる支社ビルを建設されその4階 以上を関西財界人に「手土産」として無条件提 供を申し出られたので昭和26年2月15日有志 相集まり協議した結果<u>関西財界の中枢的主要団</u> 体の実質的担当者として第一線に活躍する人々 の社交倶楽部として、日経の好意を受けここに 社団法人を創立することになった。」

〈出典:「今橋クラブ会員名簿昭和31年」〉

3-3. 立地

近代より大阪駅は大阪の玄関口である。地方会員を含む社交倶楽部にとって、好立地である。また、船場においては古くから商業の中心として機能しており、その商業関係者同士が集まりやすい場所として好立地である。大阪市において社交倶楽部は大阪駅周辺から船場に集中する。

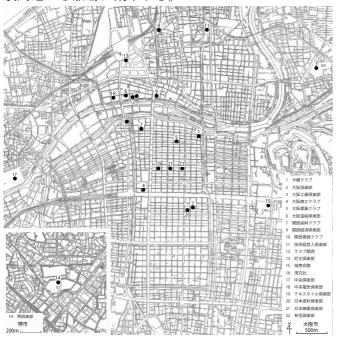


図3 大阪市における社交倶楽部の位置(昭和41年)

3-4. 構成要素

3-4-1. 社交俱楽部分類

(1) 一般社交俱楽部

会員の休養、娯楽、趣味、運動等で相互に利 便を得るための倶楽部。

(2) 同業倶楽部

個人または会社が会員で同業者が結成する倶 楽部。

(3) 同窓倶楽部

母校を同じにするものの倶楽部。

表 4 社交倶楽部の分類

| 時代区分 | | 近代 | 近現代 | | | |
|-------|---------|----------|-----------|---------|-----------|--|
| 設立年分類 | ì | 丘代的社交倶楽部 | 近現代的社交倶楽部 | | | |
| 俱楽部分類 | 一般社交倶楽部 | 同業俱楽部 | 同窓俱楽部 | 一般社交倶楽部 | 同業俱楽部 | |
| | 大阪倶楽部 | 中央電気倶楽部 | 有恒倶楽部 | クラブ関西 | テキスタイル倶楽部 | |
| 事例 | 清交社 | 日本綿業倶楽部 | 大阪工業倶楽部 | 今橋クラブ | 大阪薬業クラブ | |
| 李19月 | 関西経済俱楽部 | | | 堺倶楽部 | 中央俱楽部 | |
| | | | | | 日本塗料俱楽部 | |

3-4-2. 室構成

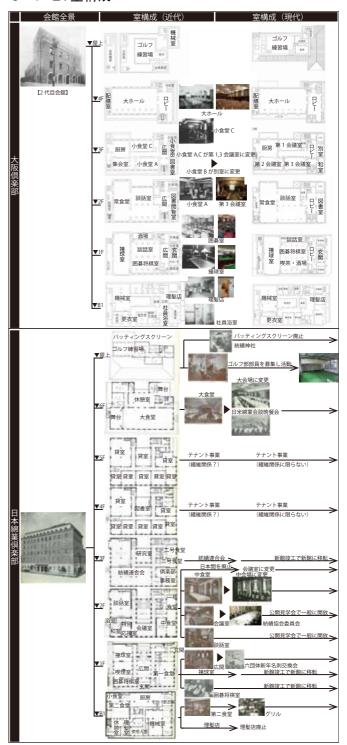


図4 室構成の変遷 (参照:「大阪倶楽部 50 年史」「日本編業倶楽部五十年誌」)

設立時は各倶楽部食堂や談話室など会員の親睦に 重きを置いた室構成であったが、次第に食堂は貸会 議室に変更され、会館の一般開放も進んでいる。

3-5. 倶楽部の解散

(有恒俱楽部)

現大阪市立大学の同窓俱楽部として大正15年創設。大阪経済に寄与し、大阪の名門倶楽部として船場で活動していた。バブル崩壊に伴い、高齢化社会と経済不況に直面して、会員数が減少し、平成15年5月末をもって社団法人有恒倶楽部は解散した。

4. 各社交倶楽部の特徴と傾向

4-1. 研究の対象

現存する社交倶楽部の内、近代的社交倶楽部より 3事例、近現代的社交倶楽部より2事例(表 5)に 着目する。各事例の会館と立地、室構成、事業計画、 会員構成より活動の変遷を明らかにする。

表5 研究の対象となる社交倶楽部



〈参照:「建築と社会」「各俱楽部 HP」、写真:筆者撮影〉

4-2. 近代的社交俱楽部

4-2-1. 大阪倶楽部

当時大阪市は人口 120 万人余の商工都市として拡大を続けていたものの、本格的な社交倶楽部はまだ存在していなかった。当時銀行家らが集う手形交換所に大阪銀行倶楽部が開設されたのが唯一であった。実業家たちは会合などを開く場合、料亭や茶屋を利用していた。そこで、一業一派に偏ることなく、財界の有識者らが集う紳士の社交場を設立することが望まれ、倶楽部設立関係者を英国に送り調査させた。

4-2-2. 中央電気倶楽部

明治25年4月東京に「日本電灯協会」が設立され、同協会は明治28年5月「日本電気協会」と改称。その後、関西を中心とする地方の会員から協会運営に地方の声を反映してほしいとの要望が強くなり、関西支部設置の動きが出た。明治43年春名古屋で開催された日本電気協会大会で、関西支部設置が決議され、名古屋以西、山口県までの会員により関西支部が発足した。関西支部設置のころから、各種会合のための会場を確保するのに苦労していたこともあり、協会の独立と会員制社交倶楽部を設立。

4-2-3. 日本綿業倶楽部

(旧)東洋紡績株式会社専務取締役、岡常夫氏の生前からの遺志、「東京に工業倶楽部があるように、綿業の中心大阪に綿業関係者の倶楽部があってよい。」を尊重し、妻である岡やす子が遺産中の金百万円を寄附したことにより実現した。「本倶楽部は綿業関係者の連携を強固にし、綿業の進歩発展を図るを以て目的とす」(昭和7年定款より)繊維業界における同業倶楽部として設立された。会議室は重大会議を開く場所を提供していた。

4-3. 近現代的社交倶楽部

4-3-1. テキスタイル倶楽部

連合軍の好意により対外貿易が再開され、外国貿易代表団も続々来朝して、日本商品が国際市場に旅立つに至ったことは、日本経済再建のため、同慶に堪えない。そこで、昭和23年2月、大阪地区所在の直接間接、関係を有する商社及び金融機関を対象に、親睦並びに事業の調査研究を目的とした社団法人テキスタイル倶楽部が設立された。

4-3-2. 大阪薬業クラブ

大阪府の区域内において、薬業、衛生材料業並びに医療機器業の進歩発展及び、その普及を図るとともに、会員相互の知識増進及び親睦を深め、地域の方々への健康増進及び公共の福祉に寄与することを目的とし結成された俱楽部である。設立当時は薬業関係者社長が昼食をとる場所として使用頻度が高く、有名洋食店がテナントに入っていた。

表 6 各社交倶楽部の特徴

| | | 会館。 | と立地 | | 室相 | 構成 | | | 事業計画 | | | 会員構成 | |
|------------|-----|--|---|--|--|---|--|--|--|--|---|---|---|
| | | 会館 | 立地 | 娯楽室 | 会議室 | 貸室 | 食堂 | 会員事業 | 会員外事業 | 収入源 | 会員数 | 会員の条件 | 入会金 |
| | П | (旧館) 木造三階建・延べ坪 | 日本銀行大阪支店跡地 大阪市東区今橋5-11 | (旧館) 撞球室・囲碁室・談話室 | (旧館) 広間 | 食堂・談話室・広間 | (旧館) 大食堂 | 社団法人創立15周年 祝賀会(昭和6年) | 食堂の利用 日曜日・祝日に限り家族 | 会費 食堂 | 大正時代 353名~732名に上向 | 社員2名からの推薦 | 大正時代 100~500円 |
| | 近代 | 395坪、設計:野口孫市 (新館) 鉄筋コンクリート造・地 下 1階・地上4階・延べ 坪1043-57坪 設計:安井武雄建築事 條所 | | (新館) 囲碁将棋室・撞球室・酒場喫茶室・図書開覧室・ 図書室・ゴルフ練習場・ 理髪室・社員浴室 | (新館) 広間・ホール | | (新館) 常食堂·大食堂·小食堂 | 常食堂給仕人を女性と する | 及び同伴者は可 | | き 昭和元年〜昭和12年 700名程度で安定 昭和13年より上向き 昭和19年801名 | 婦人の入会・同伴に制限あり 見苦しい服装の制限 動物の携帯不可 | 昭和初期 1000円 |
| L | П | (現会館) 近代に同じ | (現会館) 近代に同じ | (現会館) エレベーター・暖冷房(| (現会館) 近代に同じ | (現会館) 近代に同じ | (現会館) 特別食堂(昭和27年) | | 結婚式 忘年家族会(昭和28年 | 賢室 会費 | 昭和中期 745名から619名に減 | 近代に同じ | 昭和中期 2000~5万円 |
| 大阪倶楽部 - | 代 | (朝日会館) 帝国海軍による現会館 接収により、朝日会館3 階を借り入れる。(昭和 21年5月)昭和27年ま で 施工:竹中工務店 | (朝日会館) 朝日会館3階 | 昭和28年) (朝日会館) 談話室 囲碁将棋室 理髪室 | (朝日会館) 集会室 | (朝日会館)なし | (朝日会館) 食堂 | 和29年) 定例午餐会と食後の講 演 毎月2回経済懇話会 同好会競技会おさらい 会 倶楽部だより ニュース映画 |) 謡曲大会(昭和29年) | 結婚式 食堂 | 少 昭和後期 823名から1000名前後 で安定 | | 昭和後期 7万円〜10万円 |
| | | | 近代・近現代に同じ | (新館) 囲碁将棋室・撞球室・酒 | 一般の利用も可 | (会議・バーティ) 大ホール・会議室・和室 | 近現代に同じ | ワインと料理を楽しむ | 公開講演会 公開見学会 | 算室 会費 | 平成元年 1464名 | 近代・近現代に同じ | 平成元年より 20万円 |
| | 現代 | | | 個等が後年 1世外末 / 祖 報喫茶室 (図書開覧室・ 常食堂・特別食堂・図書 室・ゴルフ練習場・理髪 室・社員浴室 | | (ウエディング) 大ホール・会議室・和室 (コンサート) 大ホール・会議室・和室 | | は 旨い日本酒を嗜む会 JAZZの夕べ 年賀交歓会 八十路家 京同好会 京同好会 邦楽大会 | 公開文化サロン | 食堂 佳婚式 | 平成10年 1661名 平成20年 1338名 減少傾向 | | 平成24年 10万円 |
| | П | (初代会館) 大正3年竣工、床面積 | (条件) 大阪駅に近く交通至便 | | | (貸室利用会社) 中央電気協会 | 大小食堂 喫茶室 | (大正13年) 同窓会・送迎会・同郷会 | 会員家族忘年演芸会 | (会費) (大正3~昭和19年) | (大正3~7年) 312~592人 | 電気事業者及び之に関 係のある者会合し電気 | (個人会員) 出資金100円以上 |
| | 近代 | 増加により建替え。 (本館) | なところ。 (敷地) 元大阪市長 (植村俊平) 所有の宅地、大阪市 区堂島中2丁目9の 784.8㎡、一部植村氏の 寄附による。 (隣接地質収) 現会館建設時に隣接地 | 囲碁将棋室 新聞雑誌室 ゴルフ練習場(昭和12 年) 図書室 | 所の第1回側業記念式 が開かれる。 (会議室・ホール) 電気事業に関係する講 演会、説明会、説明会系 表示会、講習会、表彰式 など | 屬気学会関西支部 駅明学会関西支部 大阪社大阪出張所 大阪電気商工組合事務 所 | 大小食堂 酒場 (大正13年) | 午餐会・晩餐会・講演会 中央電気協会の大会 同好会 気候楽部入月報 年間 年間 年間 年間 年間 年間 年間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 | | 上向き (資室) (大正3~昭和19年) 上向き (食堂使用料) 大正8年まで上向き 大正14~昭和19年上 向き | 定款改正 (大正を~14年) 719~932人 (昭和元年) 986人 (昭和2~13年) 資料なし (昭和14~19年) 1669~2039人 | 事業進歩発達の途を譲 じ相互の和親を図る | |
| 中央電気倶楽部 | 近現代 | (仮会館) 昭和22年みゆきビルの 4階を借用して仮会館 を開設 (西館増築) | (仮会館) 大阪市東区京橋2丁目 48 (西館増築) 戦災後空き地となって いた関西電気協会所有 の土地を買収 | 昭和34年モータブール 改修・昭和35年エレベ ーター2台改修 (本館) | (西館) 2. 3階 - 会議室 | (西館) 4階 - 特別固定貸室 | (食堂復活) 昭和127年版急電鉄の 系列会社である阪急産 業に運営委託する形で 復活。 | 復活) 昭和27年第1~3 土曜日:午さん講演会 第4土曜日:お茶の会、 ニュース映画鑑賞会 (発電所等の見学会) 昭和39年立体駐車場と エレベーターを設ける | 技会を開催 昭和28年大阪倶楽部、 清交社、有恒倶楽部と の懇親競技会開催 昭36年好文倶楽部と 手合会 昭和40年日本綿業倶楽 | (新館建設) 昭和41年貸室収入前 年比の約2倍、食堂使用 料前年比の2倍強 (入会金会費収入確保) 会費:昭和37年まで上 向き 質室:昭和36年まで上 向き | 数増加) 昭和46年2249 人 (オイルショックにより 減少) 昭和49年より会員数減 少 | 近代に同じ | (個人) 昭和27年2万円、昭和 29年3万円 昭和32年5万円 昭和36年5万円 昭和36年5万円 昭和41年10万円 |
| | Н | (冷暖房工事) | 近代・近現代に同じ | 年) | 当倶楽部は会員及び会 | (本館) | 地下1階:好き焼き室を | (電社会)昭和54年 中央電気倶楽部の今 | と交流 「女性会員の増強」 | 昭和37年まで上向き (食堂) | (減少傾向) | (定款の変更) | (個人会員) |
| | 現代 | 大食堂:2台 特別食堂:3台 2階パーコーナー:1台 パーコーナー 梅子取替 地階:すき焼き室改修 西館エレベーター改修 本館玄関改修 | | 外) | 員の紹介もしくは電気 関係事業の進歩と発展 、 技術事業の進歩と発展 、 大学、 は社会の発展に寄 与することを目的とす る利用。 | 特別食堂(西館)会議室 | 「えれき亭」メニューの 福を広げる店舗を純和 風に改修 1階: 喫茶室 2階: バーコーナー 3階: 大食堂 5階: 大ホール | 国数置 電寿会(昭和31年) 青年会(昭和53年) 電社会(昭和54年) 同好会 新春経済講演会 定例祝賀行事 | 午さん会講演 見学会 見学部演演会 女性セミ家族施設見学会 最気関係の 女性を表している。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 | 平成元年より減少平成 7年より安定平成24 年より減少 (貸室) 平成元年より増加平成 3年より減少 (会費) | 平成5年2187人 平成10年2219人 平成15年2055人 平成20年1967人 | 本倶楽部の目的に賛同 して入会する法人及び 個人並びにこれらの者 を構成員とする団体 | 平成13年 7万円 平成16年 3万円 |
| | | (本館) 設計:渡邊建築事務所 施工:清水建設 竣工:昭和6年12月 | 都市計画による道路拡 張を機会に大日本紡績 本社屋跡地を譲り受け る。 | (地下1階)理髪室(1階)撞球室・囲碁将棋室 ・喫煙室(2階)談話室・ 浴室(4階)図書室(6階 | (2階) 会議室·特別応接室 (3階) | (2,4,5階) 会議室·貸室·和室 | (地下1階) 第二食堂·小食堂 (1階) 第一食堂 | 月報の発行 (昭和7年) 同好会 (昭和8年) 月刊綿業時報創刊 | (昭和7年) 業界各社、各団体の経 済活動の場、事務所と して各室を積極的に解 | 減少傾向 貸室 食堂 会費 | (昭和6年) 法人:122人 個人:485人 | (設立当時) 繊維関係者に限る (綿業及び運送、保険、 金融関係) | (昭和6年) 法人:200円 個人:100円 |
| | 代 | 構造:鉄筋コンクリート 造 規模:地上6階・地下1 階・塔屋 (本館) | 線業の本場である船場 大阪市中央区備後町 2-5-8 (本館) |) 休憩室 (屋上) ゴルフ練習場 (パッティンググリーン 昭和8年廃止、紡績神 社遷座) (昭和22年) | 紡績連合会·研究室 | (本館) | (2階) 一号食堂·中食堂 (3階) 二号食堂·三号食堂 (6階) 大食堂 (本館) | (昭和9年) 紡績神社遷座式 紡績午餐会月1回 各種会合の開催 (昭和19年まで) 新年名刺交換会 (昭和21年) | 放 忘年家族会 結婚式?(会員の婚礼) | | (昭和7年) 1554名 (昭和16年) 2027名 | | (昭和25年) |
| 日本綿業倶楽部 | 近現代 | 昭和21年全館接収 会館南側に非常階段 昭和27年接収解除 (駐車場) 昭和28年 (新館) 設計:渡邊建築事務所 施工:清水建設 竣工:昭和37年11月 構造:鉄筋コンクリート 造 | (本会社) (保華報) (保華報) (新館) 本館隣地(駐車場) (仮会館)昭和25年 津和田ビル(寺田ビル) 連 東区北久太郎町3 | 大会場を寝室に変更 (傾和28年) 小部屋は浴室に変更 (解和28年) 原本 (原和28年) (昭和37年) 全館 ² 原本 (昭和37年頃) 新館に五年 (昭和37年頃) 新館屋上ゴルフ練習場は (昭和37年頃) (昭和37年頃) | (昭和28年) 集会室に冷房装置 (昭和37年頃) 紡績連合会・研究室を 廃止 | 2階:和室を小会場に変更 更 3階:和室新設 (昭和31年頃) 3階:一号食堂・中食堂 を貸室に変更 | (昭和22年) 地下料理室は運転手の 簡治室に変更 各階に配膳室 (昭和2年) (昭和2年) (昭和2年) が大食堂を大会場に変更 が大食堂を大会場に変更 便 | 大日本紡績連合会解散 月報終刊 (昭和22年) ホテルとして経営を請 け負わされる | (昭和28年〜昭和53年) 忘年会家族会 陪婚式・披露宴(会員の 婚礼) | 本館の賃貸料、会費 | (昭和55年) 1000人台 (昭和63年) 819名 | 関連業界関係者の加入 を認める 観行・保険・倉庫・運輸 機械などに範囲を広げ る | 法人:2000円 個人:500円 (昭和27年) 法人:20万円 個人5万円 (昭和46年) 法人:20万円 個人:7万円 (昭和49年) 法人:30万円 個人:12万円 |
| | 現代 | 近現代に同じ | 近現代に同じ | 理髪室廃止 (本質) (3階) (3階) 談話室現在使用せず | (本館) 近現代に同じ | | (地下1階) グリル (1階) 会員食堂 (3,4,7階) 配膳室は機能する | 会員名簿の発行 同好会 | (本館・新館) アナント貸与 貸会議室 館内見学会(月1回) 音楽催事の開催 結婚式:披露宴の開催(会員及び会員外の利用) グルメの会(年2回) | 輕 全 堂 費 | (平成5年)835名 (平成10年)768名 (平成15年)588名 (平成25年)579名 (平成25年)578名 (平成27年)522名 法大: 繊維関係以外1/3 個人: 繊維関係1/3 繊維関係以外2/3 繊維関係以外2/3 | (現在) 業界を問わず広く開放 する | 現在に至る (現在) 法人:30万円 個人:12万円 |
| テキスタイル倶楽部 | 近現代 | (仮会館)昭和41年 (輸出機維会館) 8F 設計:村野藤吾/村野- 森建築事務所 延床面積:15,260.23㎡ 規模:地下3階地上8階 塔屋3階 構造SRG造 竣工:1960年昭和35 | 天王寺区細工谷町 | | (編入職会配 集会室(定款より) (細工合寮) (網工合寮) 集会室 (横浜安部事務所) 不詳 (福井安部事務所) 不詳 (大版市内会館) 不詳 (輸出繊維会館) なし | (網入廠会館) 見本室・陳別室 (細工合寮) 宿泊室 (横浜女郎事務所) あり (福井女郎事務所) あり (大阪市内会館) あり (輸出機能会館) なし | (網入機会館) 不詳 (棚工分寮) 不詳 (棚工文部事務所) 不詳 (福井文部事務所) 不詳 (大坂市内会館) 不詳 (輸出機能会館) なし | (会員が修修行会) (スペイン語講座) (フランス語講座) | (議演会) | (編人概会館) 不詳 (輸出繊維会館) 設立よる通 (輸出大き) (輸出大き) (標本) (標本) (標本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (| 設立当時昭和35) 50数社 (昭和35年) 30数社 (昭和60年) 20数社 会員の退会や解散・合 併が原因で減少 | (会員資格) 会員2名以上による紹介 所の下に本店あるい 大は支店を置く法人。 大は支店を建する輸出に密接 は関品を有する法人。 は個別係を有する法人。 は個別の日本の は個別の日本の は個別の日本の は個別の日本の は の 日本の日本の 日本の | (昭和41年) 個人:5000円 法人:5000円 (昭和54年) 個人:20万円 法人:20万円 |
| | 現代 | (輸出繊維会館) 近現代に同じ 般計者:不明 施工者:竹中工務店 | (輸出繊維会館) 近現代に同じ 大阪市中央区伏見町 2-4-6 | (輸出繊維会館) なし | (輸出繊維会館) なし 不詳 | (輸出繊維会館) なし 2~5階:デナント | (輸出繊維会館) なし 2階:食堂(アラスカ) | (各種会合の開催) (研修会の開催) (会員研修旅行会) (文楽鑑賞) | (大阪ライフスタイルコ レクション)優れた人材 の発掘・育成、都市のに ぎわいの創出等が目的 (学習院大学への助成) (業界・経済動向に関す る講演会の開催) | 設立時における出資金 | (平成元年〜平成10年) 約30社 (平成10年〜平成15年) 会員の退会や解散・合 併により減少 (平成15年〜平成20年) 21社 (平成27年現在) 20社 (平成27年現在) 20社 (平成元年〜9年頃) 会員総数300名程度 | 会員は、普通会員及び 特別会員とする。 | (平成28年) 個人:30万円 法人:30万円 |
| 大阪薬業クラブ | 第代 | 竣工:1962年昭和38年 構造:鉄筋コンクリート 造地下1階、地上6階 延べ床面積:1,624㎡ 坎薬:1997年平成9年 | 薬業関係の会社社長等 が集まりやすい場所を 選定。(シオノギ製薬の 土地) 近現代に同じ | 地下1階:娯楽室(談話 | 2階·会議室(会員·会員 | 3階~6階: | 1階: 喫茶室(テナント、 | 新年互礼会(年1回開 | (平成21年より) | 会費 | (平成27年) | (平成28年現在) | 法人: 10万円 |
| グラブ | 現代 | 室構成の変更 | | 室) | の紹介による利用可) | 薬業関係7団体の事務 所(薬業関係に限らず、 利用可。現状薬業関係 が入る) | 会員以外の利用可) | 催1月5日)2階会議室 | | 会議室料 貸室料 | 法人:189名 個人:5名 企業合併による会員数 の減少 | 会長の承認を得る者。 | 個人:4万円 (7年以内変更なし) |

〈参照:「大阪俱楽部 100 周年記念誌」「中央電気俱楽部百年史」「日本綿業俱楽部五十年誌」「六十年のあゆみ」「大阪薬業クラブ HP」〉

5.まとめ

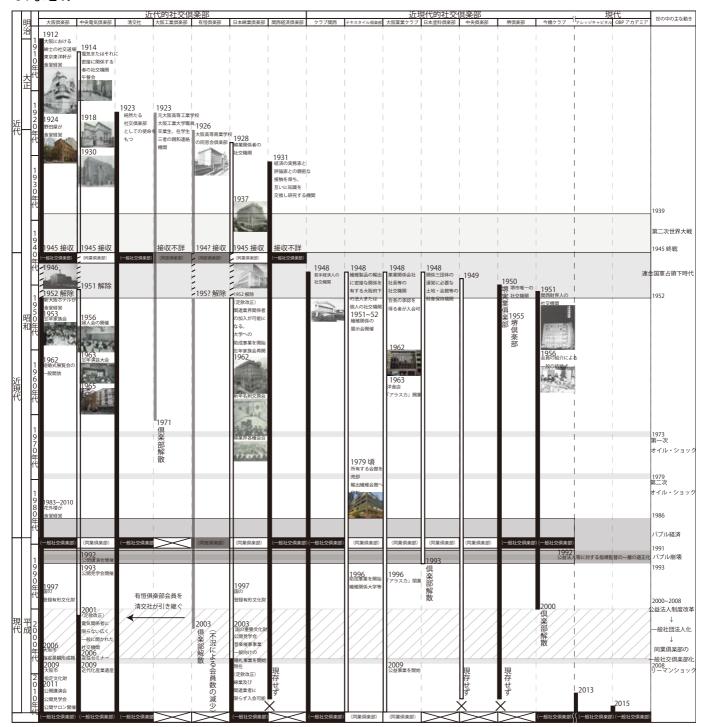


図 5 まとめ(参照:「表 6 参照文献」「岸和田紡績株式会社 50 年史」「有恒俱楽部絵はがき」「日本経済新聞社 80 年史」「国際建築(1958)」)

紳士の社交場で俱楽部内での商談を禁じる一般社 交倶楽部の大阪倶楽部を起点に同業倶楽部や同窓倶 楽部が誕生し、数において戦後にピークを迎えた。 しかし、経済不況による会員数の減少が各倶楽部の 問題となっている。解散する倶楽部の数は次第に多 くなり、現存するものは利用率を上げるため、会員 食堂等を減らし、貸室を設けるなど、テナントビル 化する傾向にある。また、公益法人制度改革による 一般社団法人化より、会館の一般開放が促進する一 方で、現代の産業構造に合った社交倶楽部が誕生す る。それらは一業一派に偏らない、会員専用の社交 空間である。再び近代に栄えた会員の親睦を目的にした社交俱楽部の形態が見直されていると言える。

各倶楽部会員のための社交空間を維持しつつ、会員数の減少への対策を考える運営上の課題は残る。 ※考文献

- 市浦健, 船越義房「高等建築學 23, 建築計畫 11, 倶楽部」
 pp. 1-147, (1934)
- 2) 橋爪紳也「倶楽部の誕生明治期の都市娯楽産業に関する考察」(1987)
- 3) 萱沼 謙、篠野 志郎、勝木 祐仁『近代東京における市街地倶楽部の 史的研究「近代日本における都市施設の研究」』日本建築学会関東 支部研究報告集、(1999)

討議

討議 [倉方俊輔先生]

近代と近現代と現代3つに分けるのは一般的にそういった分け方があるのか?近代は終戦までで、現代はそれ以降か最近のことを言うかどっちかで、近現代は近代と現代を合わせた表現です。今回この言葉遣いをしたのはなぜか?

回答

倶楽部の変遷より終戦と昭和の末に転機があり、3 つに時代を区分する必要があった。そこで、近代と 現代の間にある時代として近現代を用語として当て はめた。

討議 [倉方俊輔先生]

近代型と近現代型は設立年で分けているのですか?それは近現代的倶楽部でなくて、近代の倶楽部では?近代的と言うと近代的要素が含まれているということで、設立年で分けているのであれば、「的」はいらない。

回答

設立年だけでなく、建築意匠や内部の室構成(娯楽室)に関して、近代・近現代の倶楽部に見られる 特徴が見られるので、「的」という言葉を付けた。

討議 「 倉方俊輔先生]

歴史の研究者がやる研究であり、単に建物だけし か見ていないから設立年の話になっている。ナレッ ジキャピタルなどを含めるのは良い問題設定である が、結局やっていることはハードの話をしていて、 倶楽部はソフトの繋がりではないのですか?その倶 楽部のメンバーが活動するのは倶楽部の中に限らな くて、色んなアクティビティーがある中で、建物の 中に集まることもあし、繋がることもある。呼び合 うのが倶楽部で、そうでないとただの貸し会議室に なる。そうすると段々倶楽部の面が貸し会議室にな っているということが言えるとなるとそれはどうい うことなのか?また OBP やナレッジキャピタルは どうなるのか?ハードの面だけでなく、ハードの面 とソフトの部分がさっき言った食堂がなくなってい く兆候だと読み取るならいいが、何年にできてこれ は文化財で、価値があるという話では我々がやるつ まらない研究、ソフト面には注目しないのですか?

回答

同業倶楽部に関してはその業界のシンボル的存在として大きな会合を開く場所として提供されていて、集会所的な役割となっている。現代では業界に限らない開放で、その業界に限らない利用が見られ、テナントビルとなっている傾向にある倶楽部もある。一般社交倶楽部として取り上げた大阪倶楽部はテナントがなく、貸し会議室に関しては現代に入り、広く一般に開放されているが、街の中での位置づけは調べられていない。

討議 「 吉田長裕先生]

現代の倶楽部の活動の中身を見たときに、昔の倶楽部的機能がほとんどその場所で行う必要性が無くなってきていると考えて良いのか、何が変わったから社交倶楽部として機能が失われてきたのか。例えば食堂に関してはおそらく周辺にお店がたくさんあるわけで、そういうのが変わってきたのか、建物だけを見ていても仕方がないので、時代の中で違いが現れているのであれば、その辺りを教えてほしい。

回答

どの倶楽部も問題としてあげていることは、会員数の減少であり、各倶楽部対策をとっている。会員数の減少による収入源の減少への対策として貸室事業に力を入れる傾向にある。食堂は各倶楽部運営会社を変更し時代を潜り抜けてきており、採算を考えると運営は厳しいように考えられる。また、倶楽部によっては採算がとれず、テナントとして飲食店を入れるケースもあり、テナントビルの一階を飲食店にするケースと同様のものになっている。また、現代に入り、制度改革で各倶楽部公益事業へ力を入れる傾向にある。

討議 [吉田長裕先生]

公益という言葉の中身をもう少し具体的に示してほしい。昔はそういったところでどんなことが行われていたのか?という話はありますか?その中身が変遷しているという話はありますか?外形的に公益になりましたということは分かるのですが、中身事態が時代と共に事の必要性がなくなったとか、逆に新しく生まれてきた必要性が倶楽部ではあるのか。

回答

公益事業に関しては、各倶楽部最近になってから 行うものがほとんどで、無くなるというよりは新し く生まれている。例えば、一般公開見学会や公開講 演会などを行う倶楽部がほとんどで、結婚式場とし て提供する倶楽部もある。また、同業倶楽部は関連 業界の教育機関への助成金も行っている。昔から行っている公益事業の例としては日本綿業倶楽部が繊 維関係の大学へ助成金を送っていたこともあるが、 大学側が支援を必要としなくなりなくなっている。 その後、繊維の専門学校を作り、教育支援を行って いた事もある。

討議 [吉田長裕先生]

制度面から無理矢理そうしているということはあるのでは?本来は会員数が減少してきても、問題なければそのままでもいいけれども、そこに追い打ちをかけるように制度の変更があったから、建前上は一般公開していますよという形をとっているが、そこまで使われていない。結婚式場などはあるとは思うのですが。

回答

建築的価値を倶楽部側も認識し、制度面とも兼ね合いや文化財への指定から一般に公開するようになっている。日本綿業倶楽部は文化財への指定に関して、喜んで受け入れており、またその他の活動(周辺のまちづくり事業)への協力依頼があれば、協力する姿勢である。